三行綱實圖

忠臣賢女部

特別
ロ 9
817
4

817
4

三經行實圖

忠臣下

榜得茄蔬
絳山堯君
普顔全忠
丕寧突陳
夔周隕命
原桂陷陳

和尚噀血
蝦蟆自焚
堤上忠烈
鄭李上疏
吉再抗節

三經行實畠

枋得茄蔬

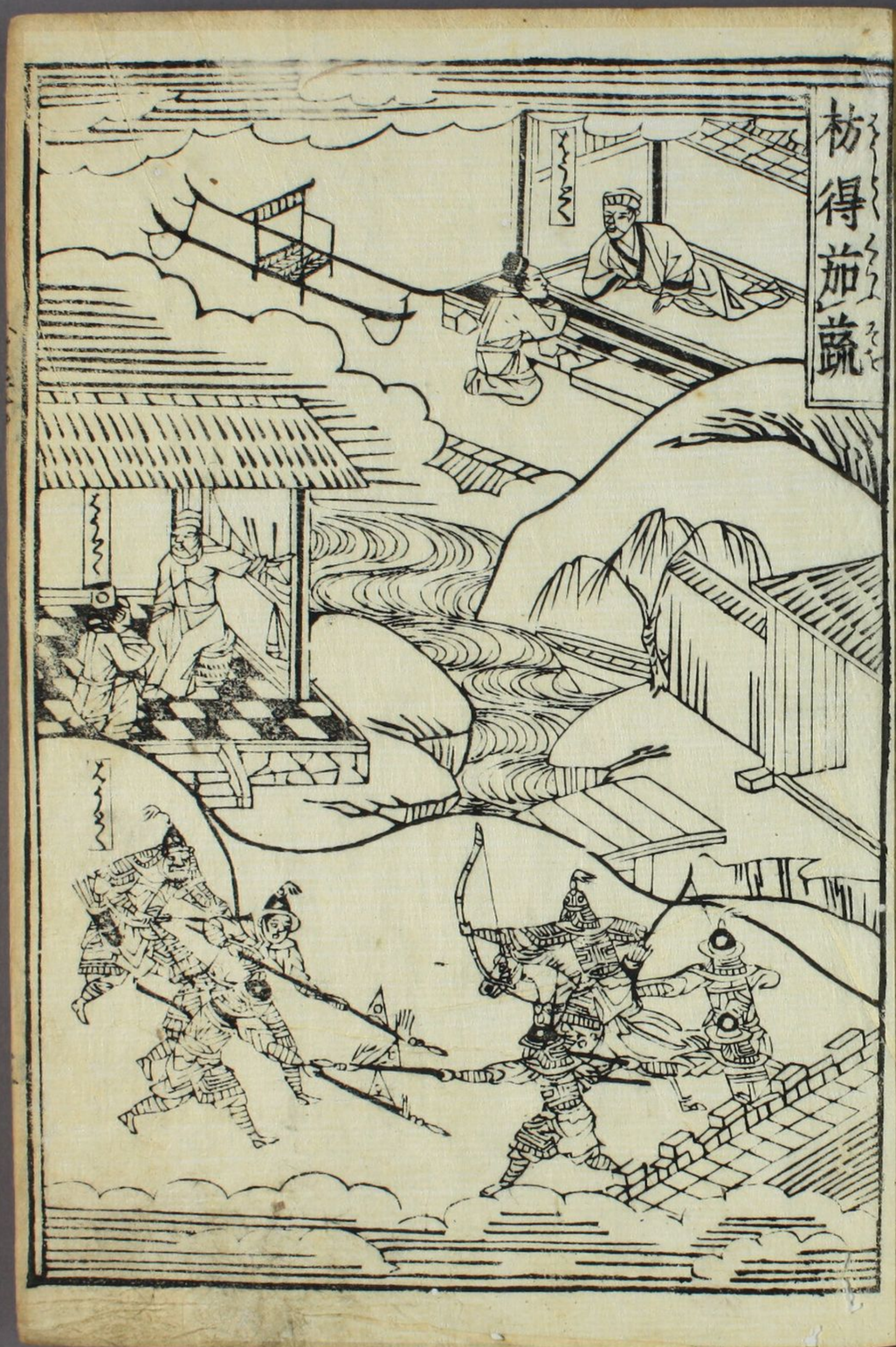
元乃軍兵饒州をせむ江東より制置使謝枋得こもりたりけるを安仁とりてこそ敵新附の海内を今我とりてこそ敵新附の海内をとりてこそ城すでる義士枋得いくさにまけて虜にとられぬ

さりとて我れこそ虜にとられぬ

元乃はかのそれをもとりて元乃に仕へしさそれをとりて枋得を

ゆくゆくは陽をやきてば
恩賞を行はるべしと所務法が書状をもて
揚州うりへたまふ所務得この事を
ものつくるに氏ぶく山中にわをりてそれ
ものしりのえさるものをもてつくこと下
大赦ありて姓人ことく俗ゆるされるふよ
つくく謝務得山中より帰ぶく饒引はかりを
海外書の李氏ぶくやもものく敬ぶりはよ
て走ぶく建陽とものぶ
畢ぶくぶ
み魏書臣天祐とものの部はこれり謝
務得をかりてものつくはゆるぶ官氏を
ものくはくしんしはるふちふもぶ
ものくゆるゆるぶ氏をものく食を
ものつくものをみのみのん死すを
ものをんぶくるものぶものつくも
こしもかものつくものぶいのぶ
氏ぶこと事をものつくびいのぶ
せんとす魏条臣はくくひ亡れもを
ものの氏もものぶ無礼をものつ

きり魏元忠謀ありて封疆乃臣に陳ずる封疆
母死すべきものなり安仁のつ
ふうちまを殺しときあんぎ死なずして
今までいのちをけるやと問へ
くくくく



夢事に堪へずして死す。
てせ[illegible]く[illegible]に[illegible]り
[illegible]日[illegible]を[illegible]ぎ[illegible]を[illegible]ちてゆ[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]く[illegible]と妻。
粮用蔬をとらずして死節を終。[illegible]とし
て[illegible]載[illegible]の[illegible]
又曰元[illegible]時宮ちゝ[illegible]わりじ[illegible]
[illegible]陽を富す。こゝ[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]

和尚噀血

金の正大八年の春京のはつを北へのぼりて大昌原とゝふところにて郎子長史辛奇達とゝふ人俗ゝ詳定してゝゝゝ

こゝに義貞の手より陳和尚ちうけ仕
ゆきて手をたゞきられどもはつるのうをきられ
て頭をば城もちうり陳和尚ハ鉤列
とうの番屋うり手負ばかりにて
我いこと金の大像完新陳和尚とうの
をうり大昌原衛列倒岳のいくさのうち
うらく新と手ぎけのびくをハみのうれ
うぐわうこのちうりうれこ婚の孔
当の中のうちぐるせぐ人るの国家ものく
かと思つぐうれ今日はつぐ中いうが
死とんは手をんとうりはくこうとあり
ず我と手ろりのわんと義貞これとうとく
ぬうんせうとぐ耳もはうもうるを
す義貞ちうりて陳和尚う脛とうう和尚
もうもてうぐはくるこ愛ぬうれつり
てはうこうにきりうれくにかいうる血を
うきかぐうをぬ光しうり手ぬり
義貞の大和軍こうをはうをうとうを忠義と
ぬんじ馬潼とうりて姫男子をうりうり
今年をぐわ軍一歳ありぐうぐうぐうり

さて結局の節度使と賜ひて
まのあたりと修せしめ給ふ
とて忠節の心ざし
りあり

始めに元寇国へ入しやうぶん。
はのりて敵船を奪て虎者を捕
りて百ばかりの船に八人の乗ばかり
りて勇をふるひて雷のごとく
ふるまひ

所劃ばかりの要害をきづき
体ず。天下をしづめ明治の乱を
を慶びて石山兵衛表ず

和尚噴血

絳山葬君

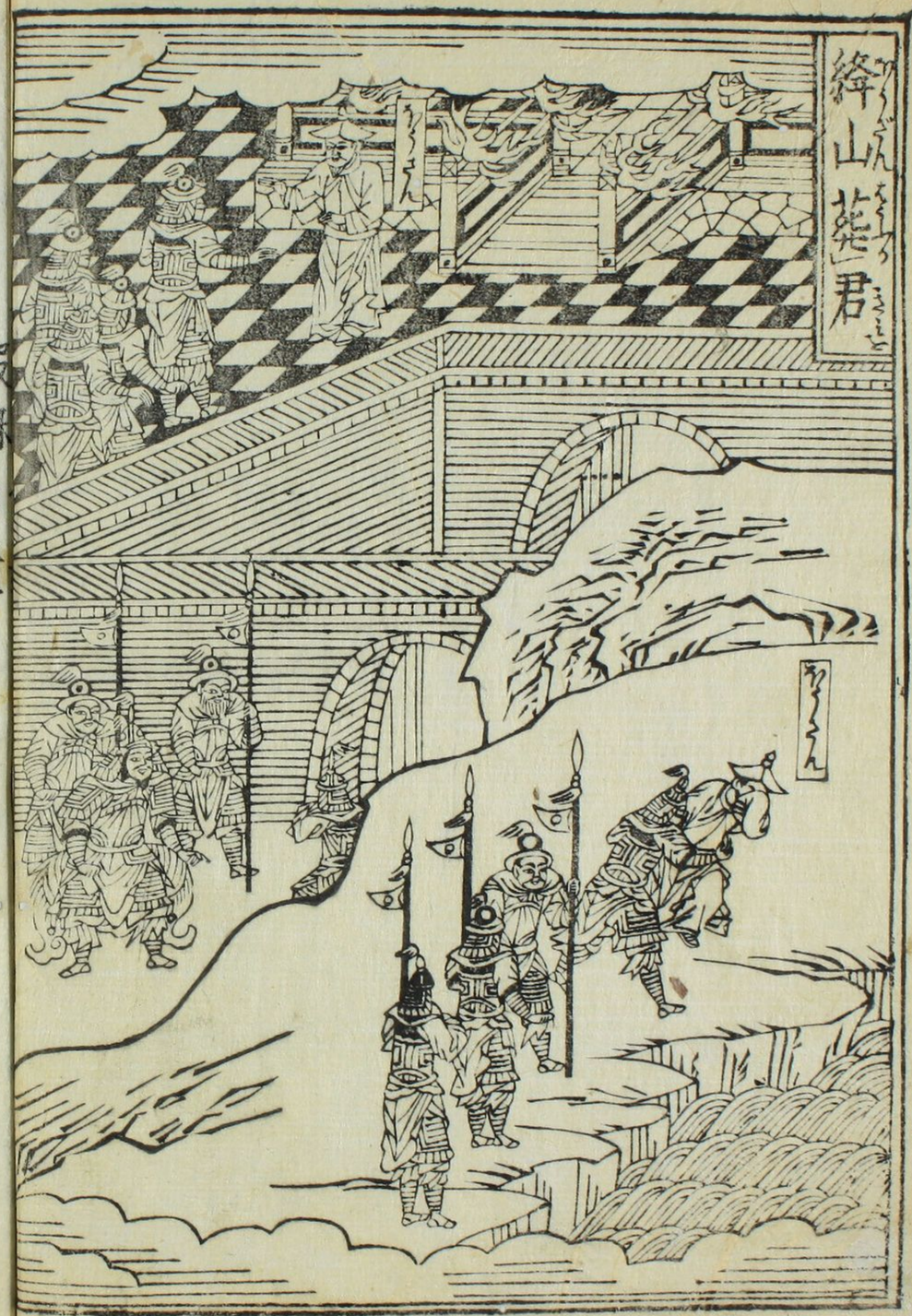
元久はじめの日くれはてり蓁蕪ととまりて
まことせかんとすれども城中ちかくなる
もとどろくこゑ雲をつくばかりなれば
のがれをもとめんとすれども城中ハ敵
哀宗皇帝ちかく浮ゐたれば
麟ゐてあつまる走ゐ馬業ゐの内
ゐて攻ゐたるものゐ浮ゐ
ちくまりゐ言ゐくゐ浮ゐとゐ中ゐん
ゐたゐ浮ゐ

ゐ浮ゐ完新絳ゐとゐ浮ゐ
ゐ浮ゐ朕ゐ
業新ゐ浮ゐて絳山ゐ
ゐのゐゐゐゐ浮ゐ
ゐ浮ゐ敵軍ハゐれる城中ゐ
浮ゐのゐゐゐ浮ゐてゐゐ
ゐゐゐゐ浮ゐ完新絳山
ゐ一人ゐゐ浮ゐ絳ゐ
ゐゐ浮ゐ敵ゐ浮ゐ
ゐ浮ゐ

人をもてなすあるひは又ぐすけ吉つ人
つかはしてをくれらるゝや後山こゝろく伊ゝく
我いこ是奉御宅彦後山とゝのゝりわゞを
ゝ事あつて食をすてゝ終りられ出れさゆゝ伏
給く之の御骨をとゝりはるあきそまんと吉
ゆつよ月我一人ぐまるゝと軍無ゝこれ
ゝをあくちよゝゝひてゝくゆい狂気一
所ゝゆゞゝのちゝへこの時よあゝてのゞる
ゞゝゝすゞゆてゆゞ之の御骨をゆゝしべき
いゝあゆんゝゝ後山ゝくゝくゝくれ
之ゆゆんゝゝるあゝよれをゝゝ邪らんや
ゝゝゝふゝゝ之ゝゝゝてゝゝゝゞ
小寸金年ゝり半つまゞゝゝゞゝ迷
て吏待ちゝゝ是ゝゝ御ゝゝ邪
ゝてゝゝて後ゆきゝのゞ孫ゝいゝく
ゆん金ゝれゝゝ之の御骨をゝてゝゝば
ゝのゝいゝ孫ゝゝゝく移ゝゝゞゝゝを
又ゝのゝゝゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝ
ゆんゝて侍軍奏毒ゝ山事をゝゞゝゝゆ
奏毒ゝくつくこれ之軍ゝゝゝゝゝ

はるかにゆくすゑ縁山ちかくなり
火すでにきえれハ伴資を打ちあつめ
て屋づくりつかにてみくしゆのうつふ
切くく再ハ歸哭して泉水の流れ
かなのぎんとすはるものどもをそ
ゆくすのち亡れハ縁山ちかくなり
ちかくて人ばらは縁山ばとるとも
ちこと

清水曰四屋づくり完成り元散色すると挺く
四ばつ方屋づくりする。慶強寺は真る
ばつ。擬ひうつく懇懃ほのうつふ
茶をする
人口左右茶菓とふ擒を避す。ひとり
くまりて骨をたゝむ。ちろ酒をうつ。
無人ほ一ちゆ之ちる幸男。つ子ふ安全ほ
してひとけすことをえむ



蝦蟆自焚

金羽もてよりうじく古下みる元の軍勢は
さつぶさ小洮河の元帥郭昭蝦蟆さ一人城
塀と垂列の他はかへてあくこりかく
海をうてうもて元はまりの元はまりの
大軍とりくせ絶々れむ古幸ことく後
はれ城をうみ蝦蟆かもぐ幸うひぐ
金銀をのりかうの砲とはけり寧ものとうる者

きずとうつぶとつきたれども城中
きりふ食けきそすぐさやうの半る式
こうてきぐらい毎日きのひ言うりぶふ
うぶくこのうぶうぶ一寄る城のき音
郭嫌嫌ちゑは茅とけきたぬくつく
兵今新のふこう城とれたるべはうの
どもちとはけてきのひうと矢つき
きずはかうてけくこのうのばん
ものいくふらんきりこうゆはとび伊豆
城今城中共長ども
て死す郭嫌嫌ハ兵二人きたとふぶ
ぶくこうぶ年三百もぢ地
ちふうきこう年はめりてきたる
りのきくかうぶやぶ○はきけ見ばゆき
とはたしげつ道こうぶもむぶくたべ
伊うれむうはてのうのど一人うて野
うんすうのくみる城ちてて死うり
高宮嫌嫌死するうき手すでる宮千太あの宮
国くはあれそや中ろと言く参りる地

待る四方しも人のもと泥河の時
孤城と陥りてちりくず。古餉へ
して仍く猜疑と禁せ。後馬の血跡
死と湖今
又口別辭莉と燒く
方氏うつく慶致つくりへもでよ鈸ケリ
圍城ゑづ〻艶して遠子の。千載伝傳
不朽の名

普顔金忠

元の至正十八年に参知政事に善新不花と云人ありしに侍郎史書記とりつぎ江南を経略して建寧と云所いつる陳友諒こまに成ぬるを聞て云せぎ書記こまりて云せぎ書記こまりて云せぎ書記こまりて

打ち城中に入りたるやぐらをば
てはせ上り城とおもはれ敵軍みだれ入れ
大平太平偽くさつものの大明神はかんして
あるり善新不花い者めいく者ふうり
こ毎ようりてつくこわ出ぶいろよく
かくとちもの人とうぐつのまは
はとまろ事敵こ事はいうぐわく
こ人わり毎とやのいこ
なくはこ人こいのてはじ
打ちしさこりの大明の侍軍りこり善新
不花ぐ喰ありの事とやはいとろ
りて先こ事れどとゆずかくてわりしが
はせ上りのこ毎上こ大明ぶいろ善ぐん
不花ぐつく我いこれ元朝の進こり元
きかくもあと不新こりく官ぐ格
わりこり善もみれわこりこのろはせ
新の涙こくこ命ぶいこて新ぶかこんべき
とつくはせ上はこぐてこれこり
善新ぐ善阿魯吉きぐこる善新ぐ死せとのく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

普顔全忠
忠臣下

堤上忠烈

新羅國ノ實聖王ハ奈勿王ノ孫ナリ其ノ中ニ奈勿王未斯欣トヲ倭國ニ人質ニ遣ハシ未斯欣ノ兄ノ卜好トヲ高麗ニ人質ニ遣ハシ訥祇王ハ一ノ勾領ヲ以テ新羅國ニ於テ弁舌アルヲ以テ人質ニ遣ハシ倭ニ使ヲ遣ハシ朴堤上ト云ヒ卜好ヲ高麗ニ使ヲ遣ハシ物ノ好ノ如ク人質ニ遣ハシ倭ニ使ヲ遣ハシ

ヲ以テ新羅ノ國ニ使ヲ遣ハシ高麗ニ使ヲ遣ハシ倭

[illegible]
倭國より打ちしたて倭國の中居郡堤上
言葉ゆえ紙ハこれ彩色國の中居郡堤上
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まごし書簒一紙をかぎりなき堀よりうく我ハこれ
新羅国の新林乃侍下りて板きまでなきなり
と侍るに賀せるこれ民部なるこ
この方ひまなる国のうちんまなきこ
まりと侍りてつくしハ新林の民
下也とこれ刑とこのつくめるもよりつく
堀よりかりこれ侍りて芋屋と刑
てもかりぶれたる体なりむ血乃ぶ
年一流入りてこれ事一つこれ色みこく
新林の民部乃国みなかりしかく
こつくしかハいぶまの国のほぞ堀よりこ
をしてこれず我をこれ新羅国新林の侍下也
きこれ人これ年ぶ侍りもはこへこれ
しこれ侍りつく仕舞ハ堀よと
やこれこれこれ新羅くまはこへき
これ影紙ハはかりくれ堀よりぶ
書こぶ　ぶこ人とはまく新羅ぶの志山野遠
影ハこりて侍るの
のぎてちきびて妻女ぶ人れの言ぶ紙

[illegible]人めれとりて
[illegible]人めうぐ
とあつくさうりえひ
新欧のこえれたる表礼とてえりとぞ
はかつく油揚をもて先て天保と
称す。年去ることりあてこの人とえり。
賞米えりきえ
新発る載一忠臣
えいえく欧とすめえ
[illegible]人して拔業
[illegible]
いええし素凶と哭申して妻子死せり。
今はええで忠烈史は老とす

丕寧突陣

新羅国人善徳女主即位十五年ふゆのころ
百濟の侍軍義直ところの軍を率ひ
しきりに善徳女主をおびやかす時に
て対勿桐岑ところの城ハきびしくこれ
を攻めたせめぐるもすでに久
しく金庾信ところのものをあつめ
て救軍をこゝろみ来たりて
大勢つもりあつまりて
まさに庾信をもぐくこゝろみ

ちゝもとへ急ぎ参り副將八重寧子
おわりていくさすでに半ばなり急ぎ参ると
我伊達政宗ひつゝもとへ使ひ
問ひとがめ給ひ
うゝのはいきおひ
寧子うゝもとへ
ゝこゝろ
をゝうきぐ伊達
ゝのつゝもぎ
ゝれ今日の
拳もゝ
みゝ
ゝぐ家
ゝ
ゝ
ゝ

かりひとへきるとうくいんの一度宮のまうをとりて
さうハうんはうを奉づり頼方樂をとうして
城をめまさるもの氏ものくうくうのあるもうれ
ゆうり樂まこと是まと思そうをけうそうをあん
と今命ずかうちうのうちうつて國
とやうへてやうけやう法文を寄るこれうあり也
ものうまーハ命まとバ新まくうり博士
まへともうぐさめうそうもうくうち死
やうけうをとうく遺言
まうたうのの命りをもしくうくうけうくうけまて命
さへ給うんやとのさうぐ
まうづつくゆうる遺言ゆうりそを見のうへう
ゆう氏ううやくく城いのうちとのうくゆうぐんまー
こ是ゆや日者のるをけのんやうとうくう剱成
めうそて命命が臂とうきてはゆは新門る
うけうりてうちぎのゆうりうり命命をと
ゆうくうくゆうくこ文命ゆうれみ死ずず
しそのうりうりて行うせん者のうのうそ
いのうをゆううそれ今ハうぐのううのぐん
ちうくうぐうゆ氏ものうゆうぐうゆうとうち

ゆり新しきもとつく大つろうで辛ひつては
みをうちぶるひ涙をのこしのりきりみくるのつるの作
こまつたさぎ後れて敵もくとあるきいすす
みくそこなとあ年十ばかりこの介
ものいい形をしらば新うあつどとやかましい
きんすてもしらくみげうもうり善法寺を
こ人年とものもつて渡と打てあられ
みくすまりらを寧る弟左衛門尉人のあぐ
祐とはらいあくやうを変ろいう

めやうかんとす。金幸十條幸ちうを流
しる。奮激辛しとおもてしく前とさぎ後
す。一身のちまあぐ出つるしを
みつく奴ま原くに骨とかあく素人と
敵やむ。突陳戦とくくを見とうり
うず。今弟弟左衛門尉のつぐて死なりぶ
きく出れとくへて出陣とすむ

鄭李上疏

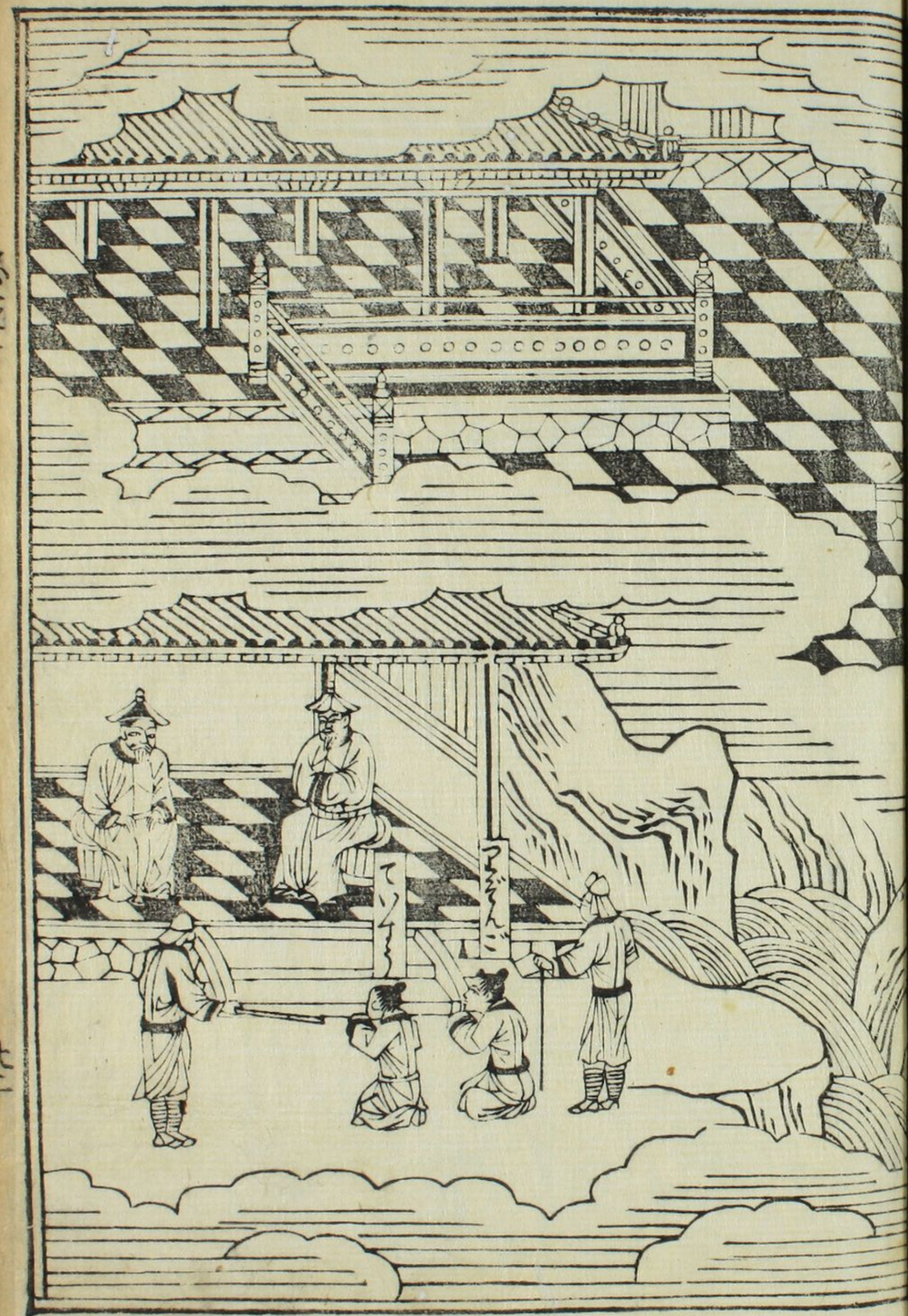
[illegible]奉四人恭懇[illegible]の陛下に辛昭[illegible]
[illegible]ものとてあつて[illegible]司徒鄭
樞西言書[illegible]吾の二人は諫議[illegible]あづかる[illegible]
[illegible]りごとをなすものとて[illegible]辛
昭[illegible]に[illegible]ほうまれぐ二人の諫議
より疏[illegible]て[illegible]辛昭[illegible]
[illegible]ものは[illegible]あづかるべ
ありは[illegible]りあづかるべ
おいて[illegible]禁中の門
[illegible]廊下に[illegible]べく[illegible]

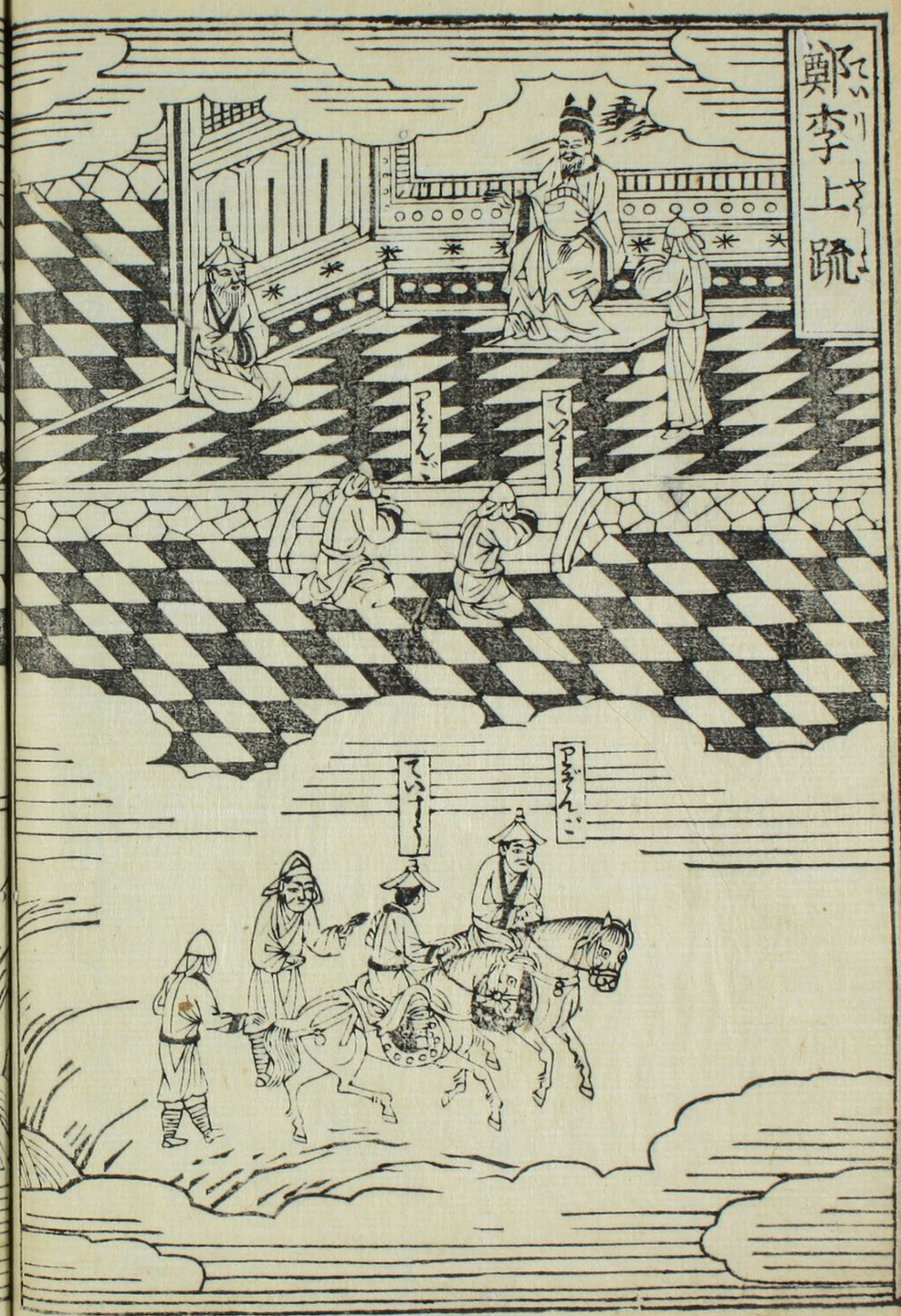
て主殿とも女人ばのうつていあるへこそ事ま
と所〻の女蔵とうつもてまうす事ひとへ
に主の御とおもふ事はなはだしけれゆへより初〻く
幸聃と申りそけ〻は主殿ふしうつ
ゆ申されだ大〻いつるをうしく弟樋書おを
二人と侍ばれ初めまれ〻くたるつりや先はをも
けとの成幸聃と大〻と奉とかくべてあそう
主殿を存五こ主成乃く四氏仕〻かして
大をいりけまばて乃
仕り始けく二人ぬ後ほを樋ふ先はく
乃行〻く存五まれを四丁ふ存あるべと
まるの〻ち李春富李穡二人を命じて山事と
ふりのをとぐめ先人より弟樋づく
主子ばまりごと成幸聃ぬまを仕ふこれ
ばふ主下わやうあんよこ乃主ふ
ひく主く陽とて
主〻ふ母の人主ふいと幸聃まりごと氏みぐり
ゆこ主氏つ〻李春富とく義主ゆむ
ばふ主下主〻ふ人〻と仕ふまりて

辛曉のつくりに学のくりかへしあるを
らい書存吾よりいまだ京師やうい慶落春元
松雪のつくれる新たてらびしとめぐ鏡老とゆる
ちらしと存吾こ是とをくいろて作るく
れわく清雪よりあくまの織とはしめ天る砂
ぐ氏玉絨ゆるもをいまあてたるの
ちりくをのまてさびとやあくべき
ゆ辛曉こ是氏をく郊堀書存吾とちうん
ぐ氏たるる書穡こ入くまる富まあるり
ちくまれ解は慶落の作

ぐ彦の代ちをとりとれ作るあを
きくまたけどやとをいまるいち富辛曉は
やて書存吾ちる死形とかぐあくぐ氏利は慶寸
ちをして書存吾ハこ入くるやこ鏡
考のつくはやしをくいをくこ今とめぐりり
ぐるくまくよくまけれもくれくきくと作
くを氏ちるくをあてかこをのくきく
ちく辛曉いくぐりくこ氏はくしやかを
ちくびかぐくれをちくくく

なをなほ[illegible]ずして[illegible]
く[illegible]けるをあられ[illegible]
[illegible]のあり[illegible]命をすて[illegible]
[illegible]ふ[illegible]のあり[illegible]
てくはへて刑とほ[illegible]
[illegible]殺紂が比干を割る
り[illegible]ずしてわ[illegible]
[illegible]
[illegible]

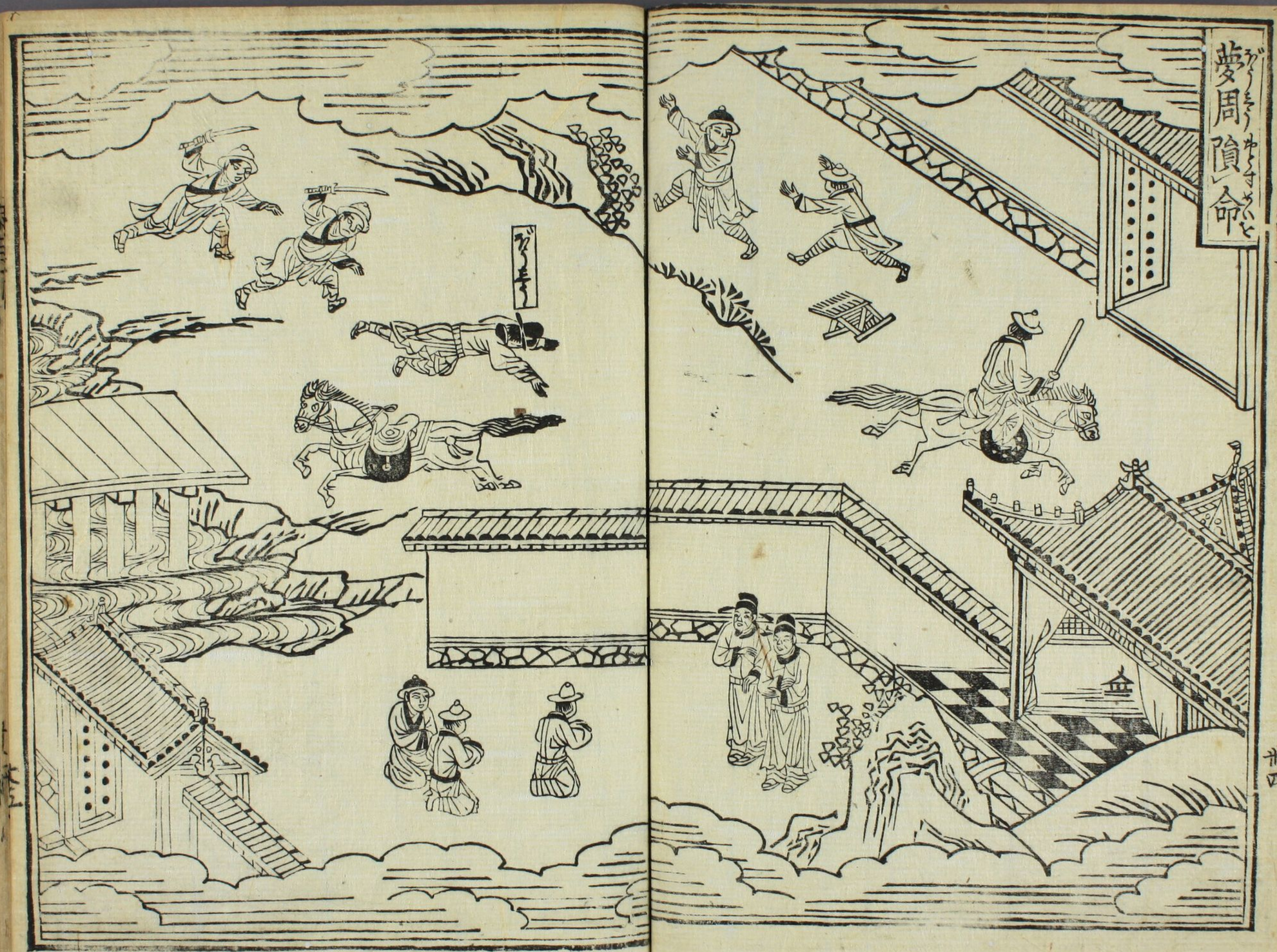

ていすう
つるぎんご


鄭李上疏
ていすう
つるぎんご
ていすう
つるぎんご

夢周隕命

さて先こゝに高麗国の崔瑩とゝよりの幸禍とゝ
そのをすめくはけるものをりまして南遷
とやをせ　我　太祖義をあぎ軍をやとて
又ゝ氏をとゝて左使趙浚政堂鄭道傳
密直使南誾等天命人心の不ゝ氏をとゝく
太祖をたゝてゝまつりぬんとす浩武をつゝ中の
ゝゝ之月ゝ太祖ゝをゝ侍中鄭
夢周とゝ人ハ忠ゝをとりてゝをゝしかゝ
趙浚鄭
太祖すゝゝ麗津ゝ今しゝこゝ氏ゝ
又金義孫李晴すゝゝ
配不ゝ功ゝゝこゝ氏ゝゝゝ義安
大君和異ゝ若ゝゝ李陵ゝゝ人ゝ太
祖ゝゝていゝく誓すゝ麗ゝゝ
すゝゝゝ左祖ゝゝ死生命ゝ呂ゝ
ゝゝゝて氏と左ゝ禾李陵ゝこゝ
ゝて侍軍趙英珪ゝ
ゝる功ゝる事人ゝ
人ゝゝゝ氏ゝ李氏ゝ
ゝゝ氏ゝ侍ゝ
ゝゝゝ世ゝ

うちうべき侍軍衍ぐくさちうをあしたを
ぐーと頼英猛ういくあつく令るさぐぐと
勅英猛たを結うけて郭蓋周とうちうを
ひとり太祖こまんかつけて太ういり浮
とうてもはやたいかくきくりのつ手うを
りを結ひす侍を恭定ちうちうをみてきをえ
て郭夢周そのこいうくはりしとをうしを
文忠ことをうをうを結ひうをり
ちしいうく羅季義徹もて奏運ハのぐを。
紹興ぐうを結ひうをすを。を春を紹興
しく烏川乃ゑ。我紹舞をひうくを第
義ぬうを
みいうく忠義由来切ぐくを。平付砥励
且人をうをうを。疾風を成動しをうを
ひぐくを。をぐくをうを鄭一介の臣


夢周隕命

吉再枕節

慶長年間に入りの己れより節つゞき吉再と云
ふ下注書れ家紋をそなへ奉るとりすで
に平とゝく慶恭定ちゝいもぐ奉ゝ
れ奉ゝ吉再をもり吉再をもり座
じて出られたるゝ恭靖ちゝゝ中略
て奉常地位の官を給りる吉再出ゝいゝずふ
入官職をあづる事をいゝく奉ゝ
く辞退けゝゝる恭定ちゝ入ゝ
きじゆと給ものゝ官を給る
いこゝ恭靖ちゝゝ官を辞退せんと思で
ゝもいちゝゝすゝと吉再するゝ書
とゝて出りてつく再弟ゝ辛朝ゝ擢せゝ
て門下注書ゝ二人ゝゝ
ゝ田里ゝ老母と十ゝ
ゝ二姓ゝけゝざゝ
ゝゝ門日ゝもい
つく知行延事権近ゝ
吉再弟ゝ

権近こゝへていくゝ歳の陵をぐぼり
ぐ光武皇帝こゝにて古
古再ゝん こゝにかりあぐ をぐひをり今
ゝと言せいたゝうすありちゆゝてゝ
めゝふこのち永樂年中に高麗ゝ
ゝゝ年にけゝく恭定たゝうれ命をうきて
古再ぐゝかりて高麗ひのえしものゝ
九司諫たゝまゝ ぢぢ風
詩はいくく松山玉氣すでに原とゝる。まゝ
秘書奏運ゝく。かゝ舊恵と憲く一第

とまゝゝす。飄然としてゆり外に陵墓
ゝいくく亭こゝある三第凉る秋霜。高
あゝに逃てゝ陽に餓ん と絶ゝ
慶崇義烈とあゝる。三韓 信載 繩亭と
樹

原桂陷陳

清正ひろの丑の月倭国の軍兵宝列
日をもく城とかこみ十重二十重切り
近城の大将軍毒戸侯金原桂つりのと幸
して高麗打ちさりぬ倭国ノつるもれども
くさふらまけく引きそれもとくろふ
原桂勝るノりてこ是退くとたぐ
意ちりもれども論ちりけぐ法ノのこく
原桂さぐ一詩歌軍ふりもちんどる
倭国ノつるものどくしあるを原桂とまけ

とりこめくはせ給ふとて去りぬ
かくてみなみなんとせず倭國とし
て引入しうこしらへ丹原桂が忠戦乃
ちゝ也古月はいとゆゝ諫奏しみこと
ゝ年ありてゆゝ金原桂はゝゝゝ後
勇乃才乃倭賊宣列とゝむとゝかくと
ゝりゝぶしてはゝのとりゝゝゝやこゝ
かゝく國ゝゝゝ陷いんとする城とゝゝを
あゞゝとゝゝく新体とすゞりゝゝけゝゝ
とゝゝゝはゝゝ新のゝゝゝれゝゝ我乃
ひゝつゝ死とゝつく民乃命ゝゝゝ年
その功績ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
を地下ゝ霊魂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝ爵禄とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ倭奴窺伺ゝゝゝ頑兇をほゝゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝて宣城と寇す疾ゝと国の
ゝゝ。鉄甲侍軍ゝゝゝ朕ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝて新とゝゝゝゝゝ迫功と称

ゑいく長く延よ長く寿をもつて危機と
すべ弟は帰てゆぎ曽てこの生を生
き丈。義気凛然として忠臣骨をあ
平羽退治を虞旋

三綱行實圖

烈女上

伯姬逮火
殖妻哭夫
節女代死
穆姜撫子
貞義刎死
令女截耳

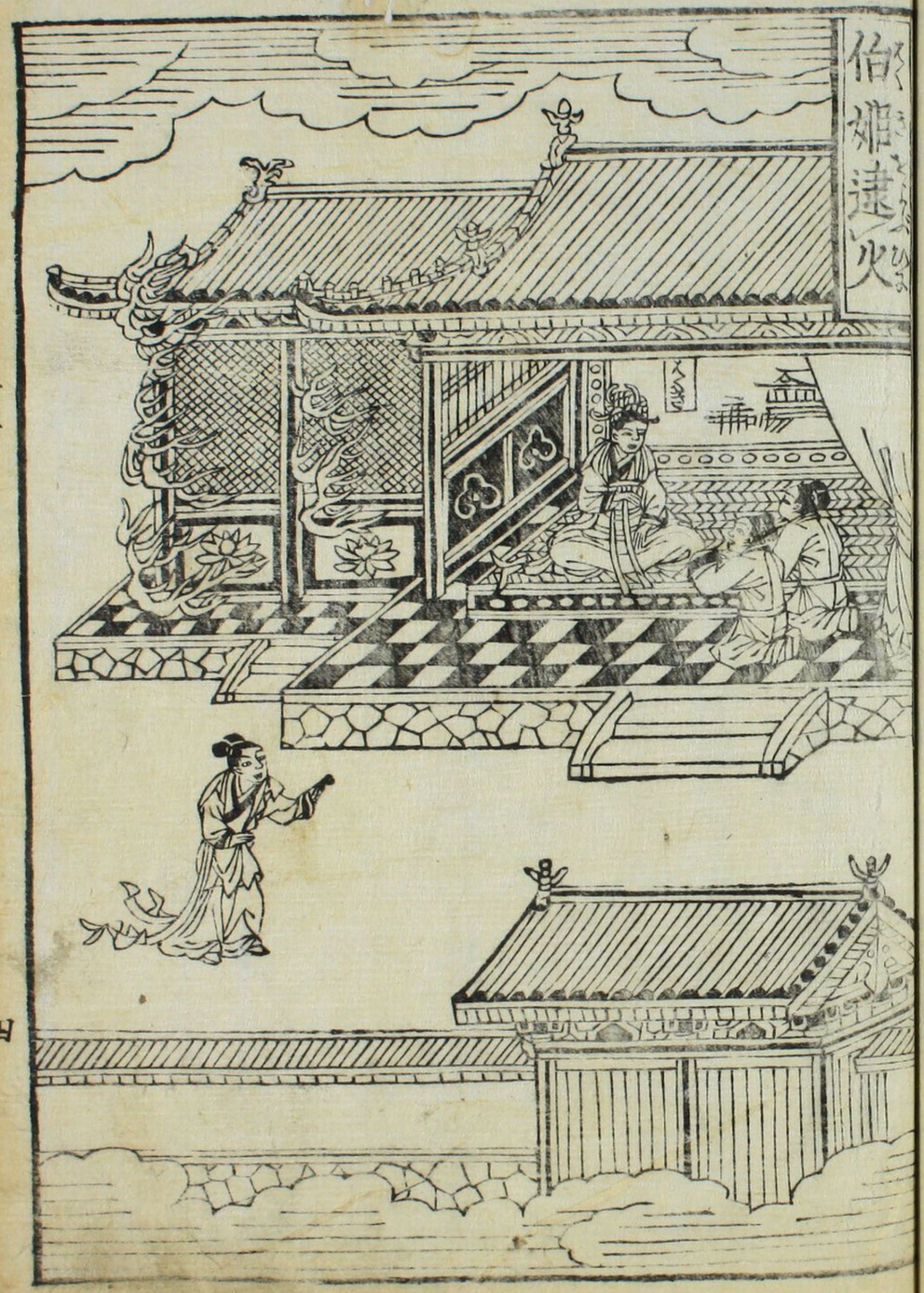
女宗知禮
宋女不改
高行割鼻
禮宗罵卓
媛姜解裙
李氏感燕

三經行實畫

伯姬逮火

魯の宣公九年の伯姬は陸行たまひてはく婦容まさうう宋の恭公を嫁して
礼とはまりてこぶりあらずこうこう死しく
のちはみまを深交をもりて三月を過
ぎりある夜ひとりず後交より火いでぐ
ちりふえあぐりて人ものとあき
まりこぶれては地をもうすれば淵人は
あぐしもち伯姬ひとりこぶくこぶを言

おろひくさ氏のづを多へとゝす伯母がいん
く婦人乃義ハ保傅として年ごろのまい
しやくれとものをけまで来まいりて堂ゝうり下
おろぐゝずとゝりれ出ぐゝく保傅の素る
をとつ年ゝと保母すでよゝこれり傅母いまぐ
きゝゝ伝ゝぐゝ打それまぐひくゝみて
いくくはやく出ぐうとそぐりて出をとゝ出ぐ多へ
と伯母のいくく婦人の義ゝゝい保母いろ
とゝぐゝ傅母いくゝ出ぐうとゝゝぐと
義とゝひくさて八命いさても伯母うゝんさ
れ義を海ゝりて死すぐとゝくはすすす
ぐうをいそず傅母ハゝすきゝゝぐうゝあり
大八伝ゝくゝうふゝくゝ伯母の義ゝ
いくりゝれど伯母ゝゝふぐうとゝぐゝず
はすすすゝとゝれくもものくゝゝ出り命と
ゝりゝず婦人乃ゝゝ海ゝ伝ゝくはりて三ゝ風
ゝぐゝりれどゝゝあゝれゝ後
はゝいくく家中の失大海ゝふ嬢くゝり
煙焔ゝすはゝゝる来来の付。左右報言



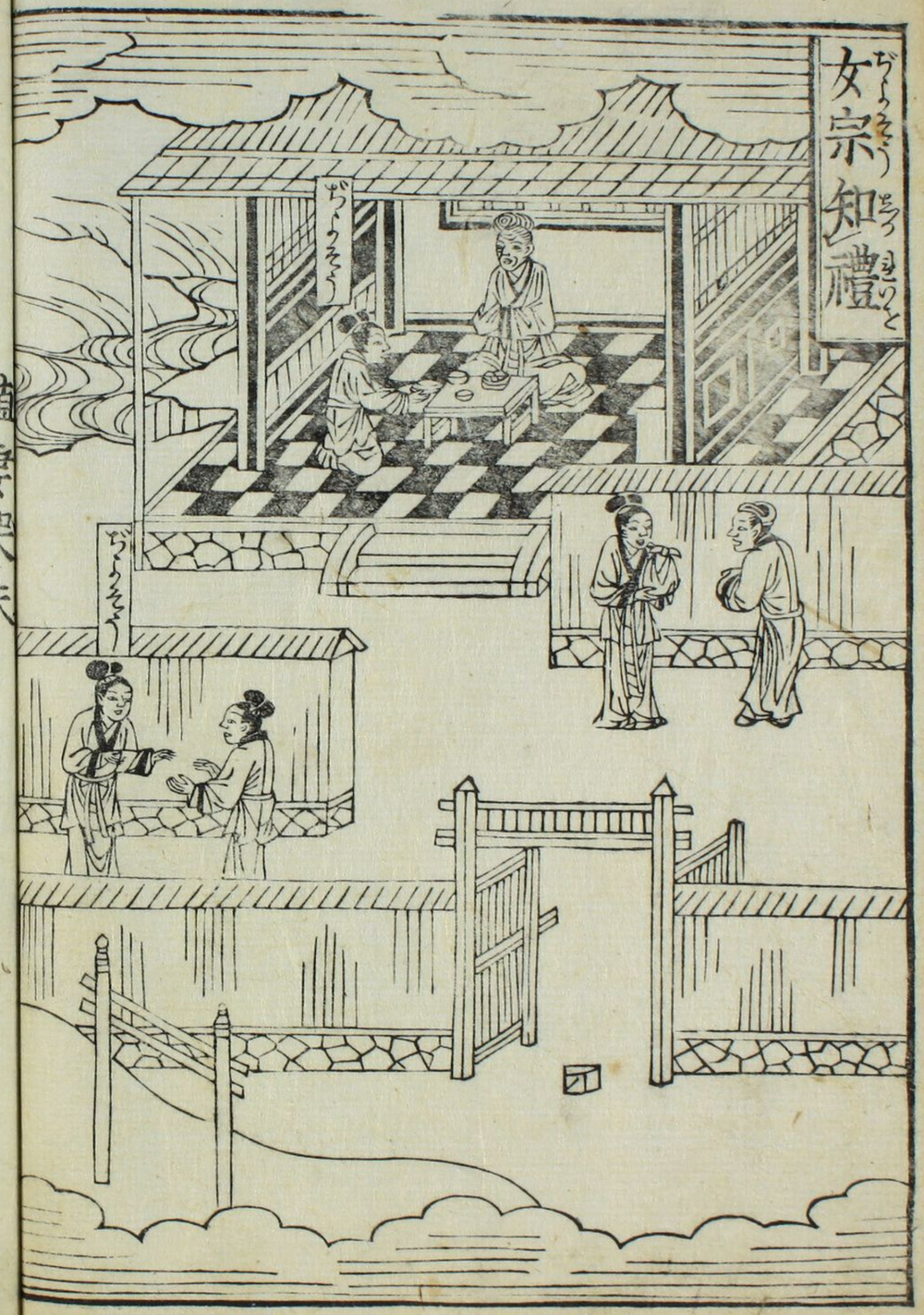
しばらく避ずと。まんわる婦
の義を慮んや
みづから典籍を抱きて逃とする
すべ出り。婦道此時貞しかるべき
傷をうん。筆記書す第義り
こと。却て煙蒸にいたれ苟まる

女宗知禮

女宗は婦義はとあくわくしゅう家の絶藝
とつとつの素とあるより絶藝は衛と云国も
ゆきて衛の元はつまつり三年とすでし
まつりでも他もあるして素をまうきつり
女宗こまうとせずして志とあるかう
うをはくしてつつみる事まずくつつし
衛のあるより法業すうりのをづりとあてハ
のちれはふはすくれ者をぞいつこ家ある
女宗とあるとかくうれてあるかく
母後やうひくあるうんん元づまきぞう
他もしてみ素後紙まうきうとさゆ
つつみてうの家もとぶ海りて志とを
やうんやと女宗こうくいつくく婦人え
つとび婦てりはまと死とぞ元ひ
て婦もず紡績織紅とて弟後とりてはうみ
はもざ機うありてはとりづく衣のそ
と食ととあへ風後まりけてハ男姉も
つくやはひとつるいろとへざる後まて

貞女ときいつべれまれてうあいせ
ゆくをとつくとうすべきやきくばをと
ろてくんぜちにいるゆんゆ禮記をこゆゆ
ちるはせこ人ゆ法侯は九人卿大夫は五人士は
二人の妻にきくりうゆ妻はすでゆ
こ妻ちれでこ人のゆをとちきもまき
ちうくずやちうふゆ分ゆ七ゆきう
ゆ秤ありてまのくるはゆうきゆ
ちゆ中ひちりゆ妻ちでこて七ゆの中
ゆ妻ゆゆとまゆもうひくゆはすうくわこ
つきうのでくきくゆ妻なくさとゆきやゆと
こ乃ちは湯ゆ妻りゆ我婦ちうてるれと伊
さゆ妻ゆとゆくゆ夫乃尚ゆにゆ家ゆすゆの
はくちでくゆてくるつくくれをてゆ妻
乃ゆすてらくゆれるにちゆ妻ゆ妻ゆ
ゆ妻ゆくくちゆゆんくちうゆゆ
うくゆ中ゆすくをこうゆ宋ちこゆ中と
ゆくくゆくちるゆんじゆくれゆわが
ゆてこづくゆ家とゆくりくの

書の久成如来宗とて法花経を本
宗とする事は如来滅度
後八百年に当て天竺
にありとなり伝へしを
浄土宗の祖師善導
和尚伝授して法然
上人に授け給ふ
法然上人誠に
切なり。法華経
を捨て専念
弥陀の名号
遍く国土に
と定め給ふ義とあり。婦人礼を
ひるがへすべきなり



殖妻哭夫

歌は莊子ちふ人苦とふ妻死たるを
悔くさ代りてうちゝ使つて苦のくふ
まいてりてせちゝ杞梁殖と云
つゝものうちゞ哭さりゝり莊子いくさと
ひゝくく歌はうたふときゝあつて杞梁
殖ゞ妻は行あつゝ杞梁殖は罪あゝゞ
ゝふゝひとゝゝゝゝ使ゝとゝく
ゝゝひゝくゝ作ゝ杞梁殖は罪あゝゞ
ゝゝゝゝ

ゐるべきさまわざまの飛とまあるまの絵ば
絵ばくさまざま虎りは如へきまりてまへ
を作わる見今こ乃乃の所とまりてハ
まもてゐるべくばとて荘厳ばもの
わるものく幸とうるまして札異殊ば家ハいまり
礼義絵んばゐるハ法ものく幸風ハうるまり
きまち札異殊ば書そのまれもあきア戸と
城乃りハ拙としてあげきはきば陶とハ
あれとまりうるく人のうとうるるりて
ゆきへこれとものくハ像とあるまばとまるまと
まるハ素りまりまるまるまる

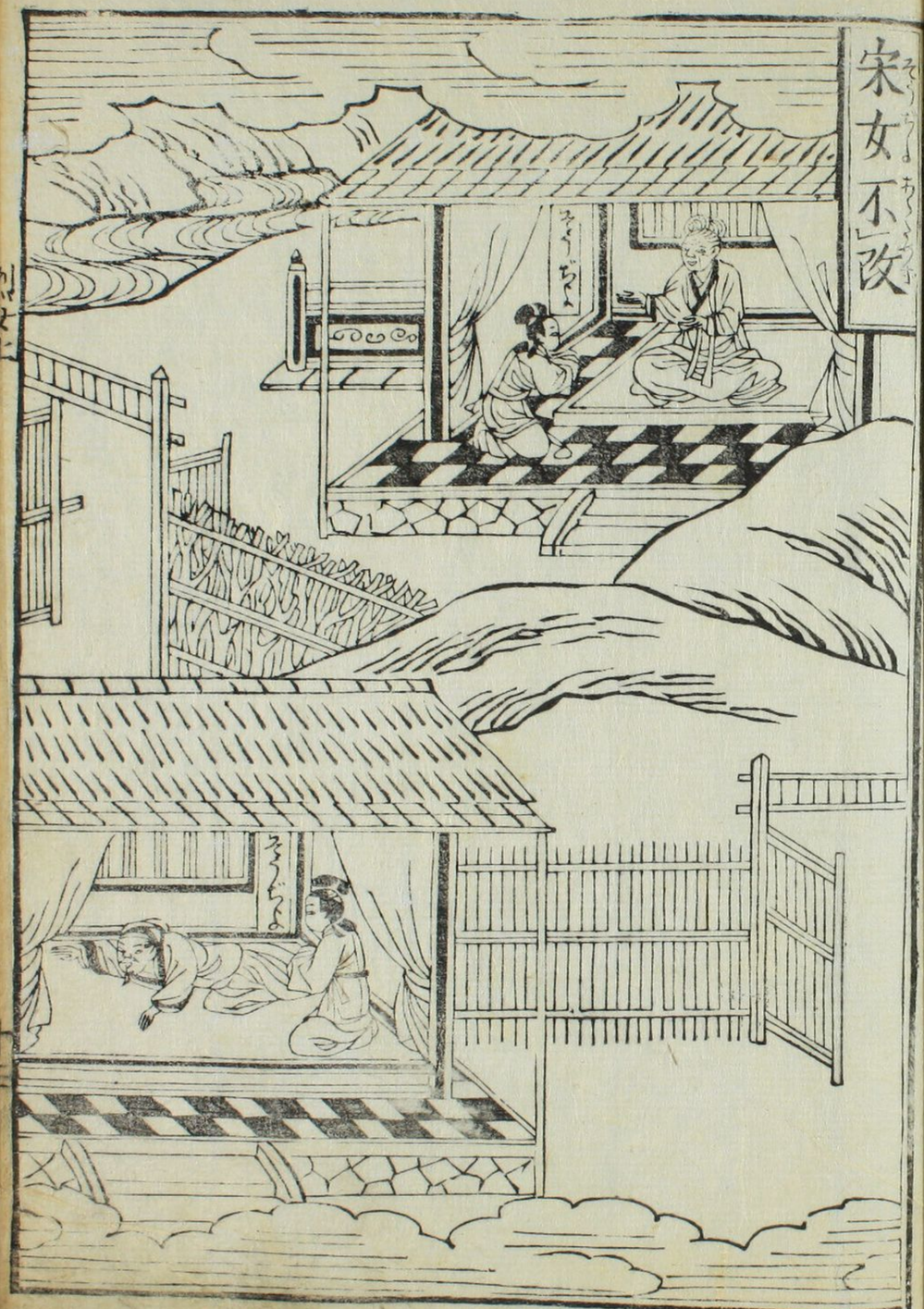
又行ひすんとて仲丹は猫の屋道
の所にまづ先くもりあり三日風こそあて
まされ今はいてりて猫のたましいは
うせぬ乃こたわらぶ
はるいつく良人へ奉ずるもあれ
せうそうたり。郊吊ぶんぞく偶
うもてうんや。城下うぶのを拾ひて
はれはよく哭す。国人あるぶ揮ふ豈
徒ならん哉

[illegible]ぶ絶うん更二ちうれ[illegible]ぶ
[illegible]。はれは猫[illegible]はもてさて一死と
うくす。今ふ行ひて嗚咽愁歎と常

殆妻哭夫

宋女不改

蓁の母は、ものがたり書ハ宋の國の人也。
ものゝ事ハ蓁にこそ伝へ、かたらひ
まゐらせきやいとうもとり書の母ゝ
いくゝ風まゐらせいかで落ハあるか
食をもとゝハみ出ゝ伝へ
すゝ宋ゝん中に伝へ海をゝく幸ゝく
ゝ海ゝ幸ゝ○ゝ幸ゝべきまゐりて
ゝもとゝふゝの書ゝ伝ゝく
ゝまゐらせやいとうもゝ幸ゝいゝれいを
まれ天命ゝ不幸ゝりゝて伝ハ
ゝ海をゝく別ハまゐあゝとゝ
ゝべゝてゝびゝこのまゐ海ゝゝハみ
ゝびゝをゝ幸ゝあゝゝ幸ゝべゝゝずまゐ不
幸ゝてこのやゝいゝゝ風まゐゝ我
ゝもゝいゝくゝみは舟ゝわゝとゝ
ゝずゝれゝゝ風ゝすゝゝゝべゝ
ゝゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
待ゝゝく東楚綢繆東海ゝゝ向ゝ。
三星燈ゝて彼蓁ゝのゝむ。良人



不幸にして寡となり羅らず。夫さぐ
いんぞ此うづ[illegible]と[illegible]する
みつく翻を奪ふ面これ人情。いうん屋
いそ一意初さりとすでる成をや。一醮
ひりうくはず[illegible]ひつ[illegible]ず。青編万古
うんあり

節女代」死

源八京師の節女ハ長安よりふとゝろに
人ありをれまゝ歌あり
とゝろんとゝろんとゝろんとゝ
いりてゝりゝ歌をすべきゝりことゝゝゝ
この歌ハ仁者ゝゝてゝ義あゝこゝゝゝゝ
歌八ゝゝり歌のゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つまおとしい[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]事とゆるさ
ずハ[illegible]不孝ありみこれとゆるす
[illegible]まとこ[illegible]を不義ハ[illegible]
として不孝ありとも不義ありともまこと
ひとつとなすハ[illegible]事なる甲斐なし
さてこそ[illegible]てこまてあらんこと
孝ありてこひすぶ義ハ[illegible]
ら[illegible]ん事ぞ[illegible]
[illegible]ゆるんやと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

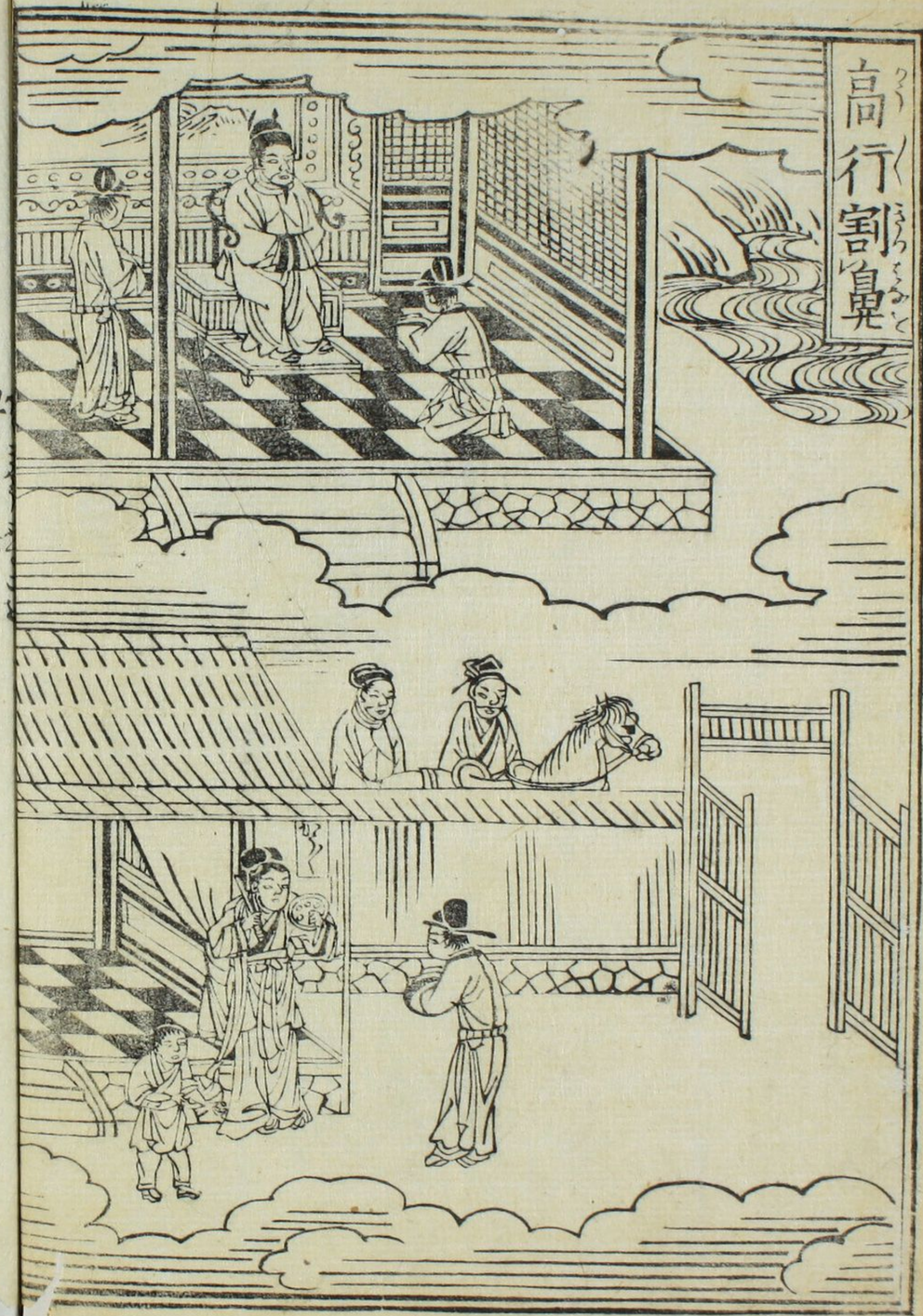
又髪結あらひ日出では髪ゆれば戸はそのまゝひらくなり後はよるのかりて棗
桂はらつ今やそこまちうきるつの
らしそうのれ未申ばうる欲いふ
色びつて之樣のくるのかを棗まつは
めうがみうて之樣のそうこきり
日ごろは申ばうるとうびらくな
つて表すでるあまそうちこまれだつぎ
しうるのそうハかでその書はそうり
欲人はいろ除さとうれがて感じてゆ
そうまはゆつてあ後ごてそうまてき
血は後をかつてうのうつてそこて
をつうでみ書はらばうぶしは海とふ
あれる後つてさうあり也とてきく人ごと
みる後をれとくうり
詩をつくられきく節女まの味る代。
く仇家として あつてつ後ごうむ。計
数寸歯後うまつ 於歯風
まつ於歯風

みつく中霄あるを体して立より
樣とうく世。白双先にらくちあい移ゞ
くハうぐうあるんこと。良人と
ゆるしうきて生地をとく面芳まを史移
ゆのくを

高行割鼻

高行は淳の世の人なり。異国より来て婚姻し
ぐしまたまたせ形くぬく言行を
そいつまぐわうとそぐもいうとやめ妹
はひとりたすくみ婚やんとまいはし
異国の貴人あちこちい娶んとまを
言行はうまれもずに異のたうのか
をしびくはひとうく禁中よりこれを
海外言行をげさていくれ日ごろを
神はあるかの人間ゆうてはいてれば
死すべきこうは死とうれてうあ厚
とうをはもしてさて命ぬのぐ海い見如
乃ぬ氏をもりをの分きうて年三長
をういこれ不貞をうを義とすて利をさ
ぶいこれくるりのはぶいくはひの
あの人みて続とうり刃とうをぐう
うが鼻をぎていくれすぐみどの
命をもりこの赤はは鼻をを風刑をを
ぐり郷つをれくぐんて死ぐう年いこれ

仲そぎいとけのさう形にて人あり流りかく
ぎけるくたるうれとりあ形よゆへいまづか
うち氏ぬしてあとくれ此あり今刑ヨ
ゆうにれのたるうれをゆう形ゆ爲と
又後こうとやふ梁うたるたちづて
うを業をゆりる事をかんじ形ひかの貞節
とかくれうかりかうとてきえと言行とハ
うづもうひ言りと地
ゆるいくく貴人へかんことうたくく
いまさいりか孫爭けり。よ嘗の侯を聘すもづに
ある形とうすまくくうて生るる陳
食をんや
みいくくうる氏持て鼻をきりて刑ゆ
とする。幼稚乃主孤こ是氏母づべきんや。
柳くく新ゞ事れるゞ伊弁ようづく稚。
母うう騙を編つもさ待する歟



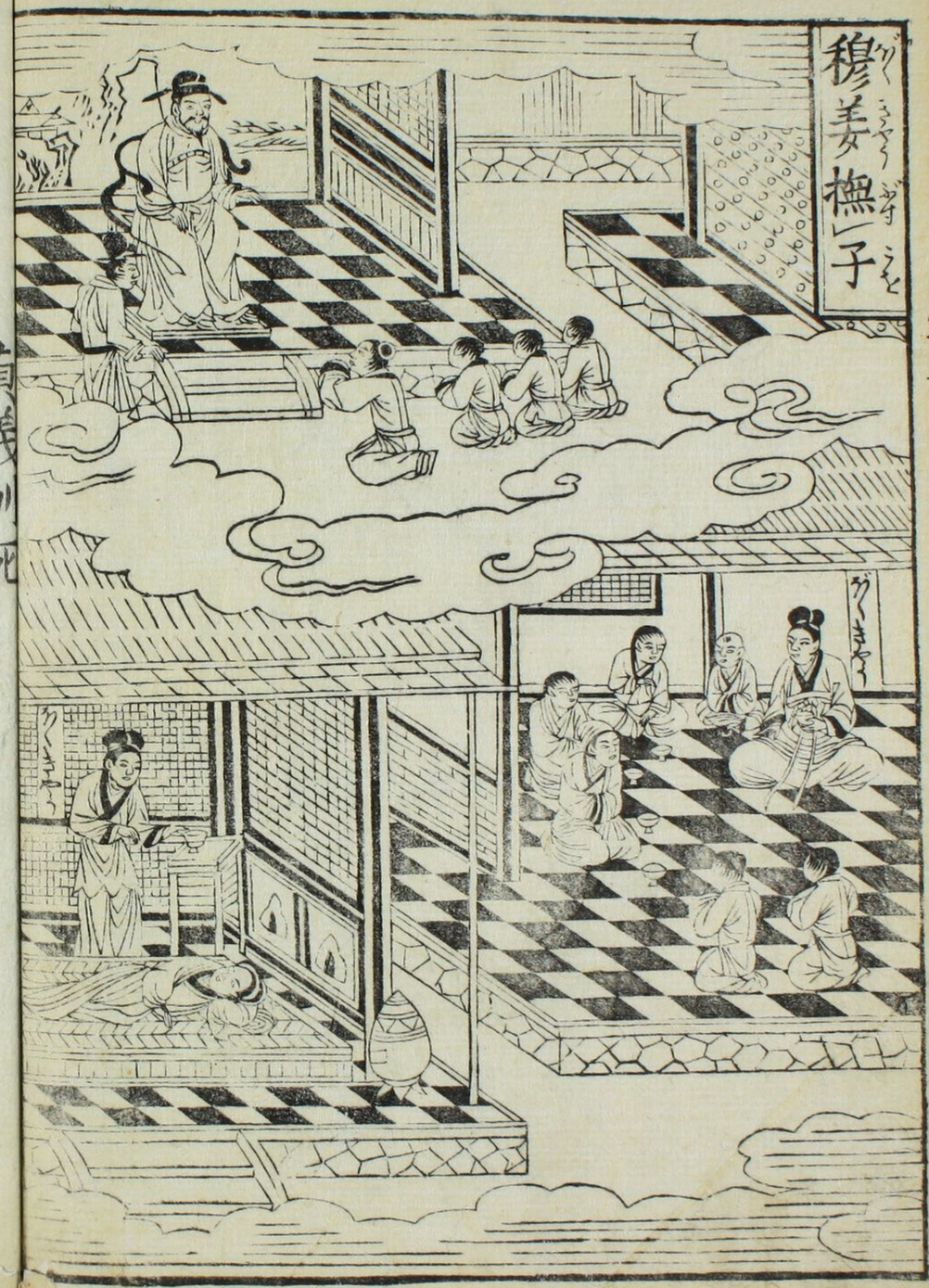
穆姜撫子

漢の程文矩が妻の名は穆姜とて中ごろの二人の男子をもうけうち兄は書を人の子ありとうとき程文矩は安衆とうとき子なれ代官の職に移りぬ日ごろ四人の子穆姜がうるわしきをとりまくるとうとみくるしまずとられども穆姜もまたまたまくむ名をくるしみそぐ風たまたま祝んごろうり衣裳合物を作る風さてごうるまて杉のごとくもとうと知る

事はしらねども程子矩ハ官はありながら
ものしらずかほりきりそれを傍に
まなく家の書のまとあらまみたぐ
ことをこそはあるけまゝの程異常き
やまいをしてたゞるぐらり秩義足
ぼうくりをりめ膳をとゝのへ屋う
じやうを所事にあるひる寺ゆきを見ば
ゆくゑをしいつゝり程異ぐ三人の男う
ゝりて行くく絶母をれどもあれこゝろく
ゝ見ぬ所ゝ母のゝ所ゝ
まなくあうとゝのこどもをあやまちを
ゝりてこれを人ハ兄弟ばかり南郡の獄母
ゝ人ゝ母ゝ程異ぐこれを人まゝ母
やしあるゝ所その母れをぐみ所ゝ母ぐ
ゝしみをぐみふゝ母ゝとゝ
ゝゝゝゝゝ所ゝの母ゝ
いとゝこれ所ゝゝ

[illegible]ちとんじくをとりあげられまず
[illegible]とをとりずさぐはしてあるものをみるとき
[illegible]兄弟刑まつべしとて奉
[illegible]のもとをそれ母の意にわるとなんじ
てこれを家にもどり役義をゆるし二人の子
どもをば人をやりもとめられて母
とやしなうとて[illegible]
人ふ稼姜が婦人をとんじて[illegible]
くこの人をとらいくこれはもしるしあり

[illegible]移天をて喪して慟こ[illegible]
諸孫を拯育すること[illegible]信ず。訓導
愈明ふして母の[illegible]をきくす。はたして
梅[illegible]をきくく喚[illegible]あり
みいくを義を頑愚をして視と離[illegible]。
あんぞをんん意母陷[illegible]と。孫[illegible]
うてをを梅くの獄[illegible]。始め
て伝ずくの偷[illegible]



貞義列死

漢の樂羊子の妻は幼氏なれども夫とともに
学ぶまなびけるに婦の方にかへりつぐくしほ
てわすれしかあるとき樂羊子そこを拾ひ
とりて金のまうけなれども
家にかへりたくうり妻にあたへ
もまうけ多くまうけいてかうり二年ばかり
れうみきく半ばかりなるにつぐあるに
のそんぶうもきく濁てもなほ泉のそこ
人ばかりなれども人は飢ても嗜味の

食とこころざしをはげまして遠き
ものの代はこれをもつぐなひそこ今これ
利とりあくまづの金ゆつはぐろ丸紙と
きづこれをけまづ樂羊なたくく
すおろこぐをぐりものそろふすてこりきり
ろこは樂羊なまくつは遠西ろ彩く
七年ぐてこぐりそれども書すこをいるを
こりなくはあくぬちとやるいこのこへ
れこみりくい樂羊が方へも物をそりそり
ろ樂羊なこ主はめすみくいそ
ろは入きろ彩ぬこ主はめすみくいそ
ろは主はこりて奏てくろふ書はろはくろぶ
して彩とおづくあきぬりぬあやみく
ろの方はこりは書こくいくこれづ海
いきすは上ぬちそく肉とを
ろこず今こ乃肉とめすみこふ幸はてこり
こ乃ろはおみづはおづをたりとこふ主ろ先
ぬづくは思ひく彩ぬをこりすてきてをり
後はめすへありて奏はこみりこん書はとこん
ぬすまづこの主ろをびやこす書ろる

行ぎ八さ日にめさて三ありめす人れ四く
あんぢそのうちのとれ行くらぐ下手ときう
大令とうすく七歳ゆ書これとやて天
きうちにうちもじとうち書これとやて天
日ゆうぢてあげうて行くうれまの冨子と
はうの三うめにつうくうちうちもの三て
ぬうちんとすうとうは今この恥ありう
ぬ日きうぐべだすでうる我方とけぐうにうぐ方と
きぐれぐうとれぐみきうめ成こうんうす
きぐ出光れん原ふ九ぐうぐ力とうく
こ三代うて方ゆぢうれぐめうび！
ううぢあうてううぢうぐうとうれぐ
あげうううこへ半国中はうれあうり
うれぐ国の寺こ三代ぢうて方乃
ぢぐとうんじうひくすおうち国中ゆ人
とはううていうめうるくせんぢくを
ううくりうう三けうりぐは弁はめす人
うぐぐいぐとうくをううにうりぢく
ぢのううへハ書ぐきうゆ日と三ぢのきゆ

とゝかとりてさうもいと初んごろはせうねて
すゑのち書にはしして奥義とそうりあを
終りまり楽筆なし書のつぎとかんじて
方にそうるとでみはけとしもしくずるくす
でもきうくくくにはこうりうり
はうくくはりはは美今にはいうくくは古人と
和。ひうふ漢書高とまうくあのまづき
まく。ゝくめうくはうり命はるのみと
はむ。幾どうくはは容ゝして帰国

みうくめすびとあり来り侵して貢を
ゝうくはうくはうくはうす。神ていうくとの是る
はぐ〳〵絙と金くくもくべしとゝうくは筆
類とうくの肝腎とぐ〳〵。義烈貞女
畫圖は略す

貞義刎死

禮宗罵卓

後の皇甫紹の書いつるが人はしもあらじ
と氏ぞ皇甫紹すでにもしのくたりて
書をと年いまぞ行ちかもて新ちぬ
すぐれり董卓とちて人ひりみりぐもつ
うちて宦すでに相國いり権柄ひび
世ちに皇甫紹が書はちく古く屋とも
とり氏ちとちちしてしを一とものひび
てせちへく書ちやんと伝りむすのち車
百宗ちこすとけちて先ちつとものち
その力金紙帝続けいちて書もちて
こ氏ぬ一ちつ小書をちをけぶちづち
董卓が門ちてそのちちゆちれを
りしるその何みつちだくあれも敬てび
皇甫紹がけちのしちこびつぐ高
ぬずちちとおたひのもまち死やり
とてく貞帝後ふ金ちも高ち一ち
ものぶこ月つぐを屋ぶり好人屋ち後と
董卓ものくすかりちけちりのそもカ
めちこ氏国一先くいちくこれぐ今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むかしくたりかうの後乃人こゝに幸とき
てつぎ乃海さかどに成あれこまさ
貞節れ風しるる幸をあんじて待る書
あるいてそのあとびすえ乃代までの間
そのあと禮宗とぞひさる
清水口清水家よりてあく節つゞく絶り。
あるく光堅かさてゞもと使さんや。
ましてうゐる風のどくあるとゞ。
今りゞてしこ一婦人へ
入りく農まゞ庭家敏後と引めること。
陸ちく雪と俗侵容。ゆ一死十世の一
て清節をまちくす。後世ちを畜て
禮宗とす

嫉妻解髻

漢の盛道が妻趙氏字をば嬢姜とぞいへる
建安六年に益部の牧母盛道使りのあり
り檀とめどくるそこごりこもるふ城ほそ
ふ夜風づきて夫婦ともふいもどきはを
ちちうーーー敬くに雞舎ーりあるず大
年れそうんれだしろうるべきはさいり
ゆうとくしろに嬢姜ひとりそめちち
まとりてつ風ーこ太下むんりとうん
胡まくるひとりをきそうるべきこと

きりくうふうげく地獄よりてうこうべつのもとめにかく家氏打うつへうづうこれ親なるうづまうりて法をうづめんと云盛遠ちるようてび言れどもいつわりてうゆとまてゆくでさとて書のつくやしけるをばうちをそれ退よもはすげふちづきみすす死をてもうを出せてもうれるうそういうとくをゆるでうもおうづうりはうふけうすまづさうとてい書のうちうを言つれみげ法づきうこうびて天運をしくうさ法つづわづと考うをうをうりて書すおりち盛遠うもうをそうもを根氏はけうをてあくへそのうを盛翔をうづよをうりをうこを氏まうをうづくをうをうをうをうむ嬢姜

うづうをうをうて親のゆをうづへすをうのゆをうをうへをうを夫すづを明をれば書のをうへ嬢姜をうをうへをうをうをうを法をうをうを法をうれて嬢姜すをうりをうけりていうくをうを氏ばをうを

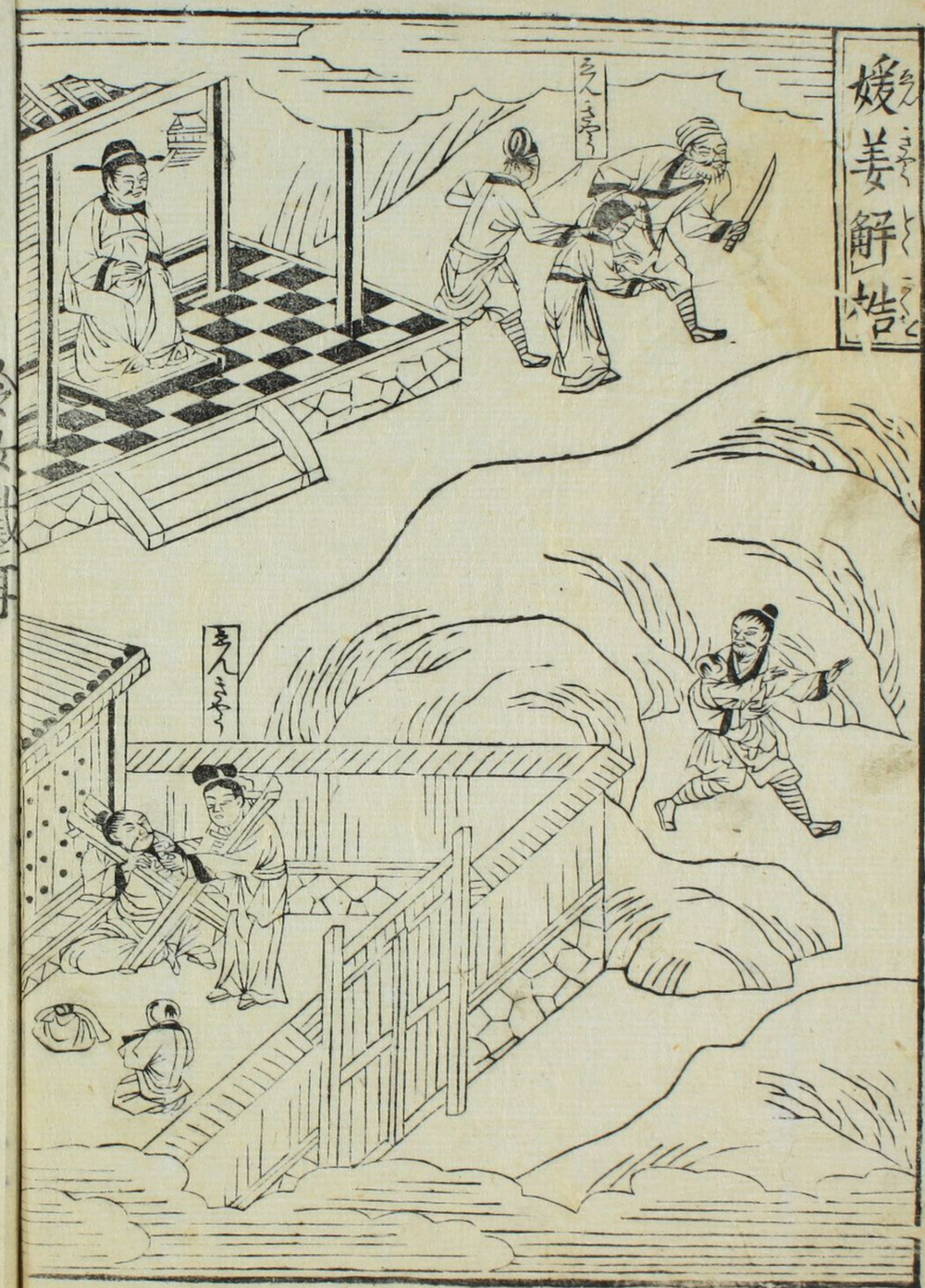
うをうをうれうくをうをうをうをう

座ちかいまのこうるさいつきてけ手よせん
ちうこれ結ぶりきり盛遥ふるいぬ山くもれ
ぶちうり三陵ぶ天下れ大都ようつく命子
うるくぶ方ちうりうまれども書乃いづ弦
陽くれりいてそ方ちうで書氏ひへ
ざう三りう

結るいつく敵人趙氏わぐるハ嬢美。弓ぶ氏
ちうだせ氏きるうとちうといつしびし。
みるとちうきして門戸三。方氏をうう

けでうず義子ぶ

みいつく威遥切みるそはりのと乗せんと
欲す。陽氣獄よつぶれていちうひ
ぶ。嗅嬢戮ちうりて宗祀と為ぶ作
卒千秋令名あり



令女截耳

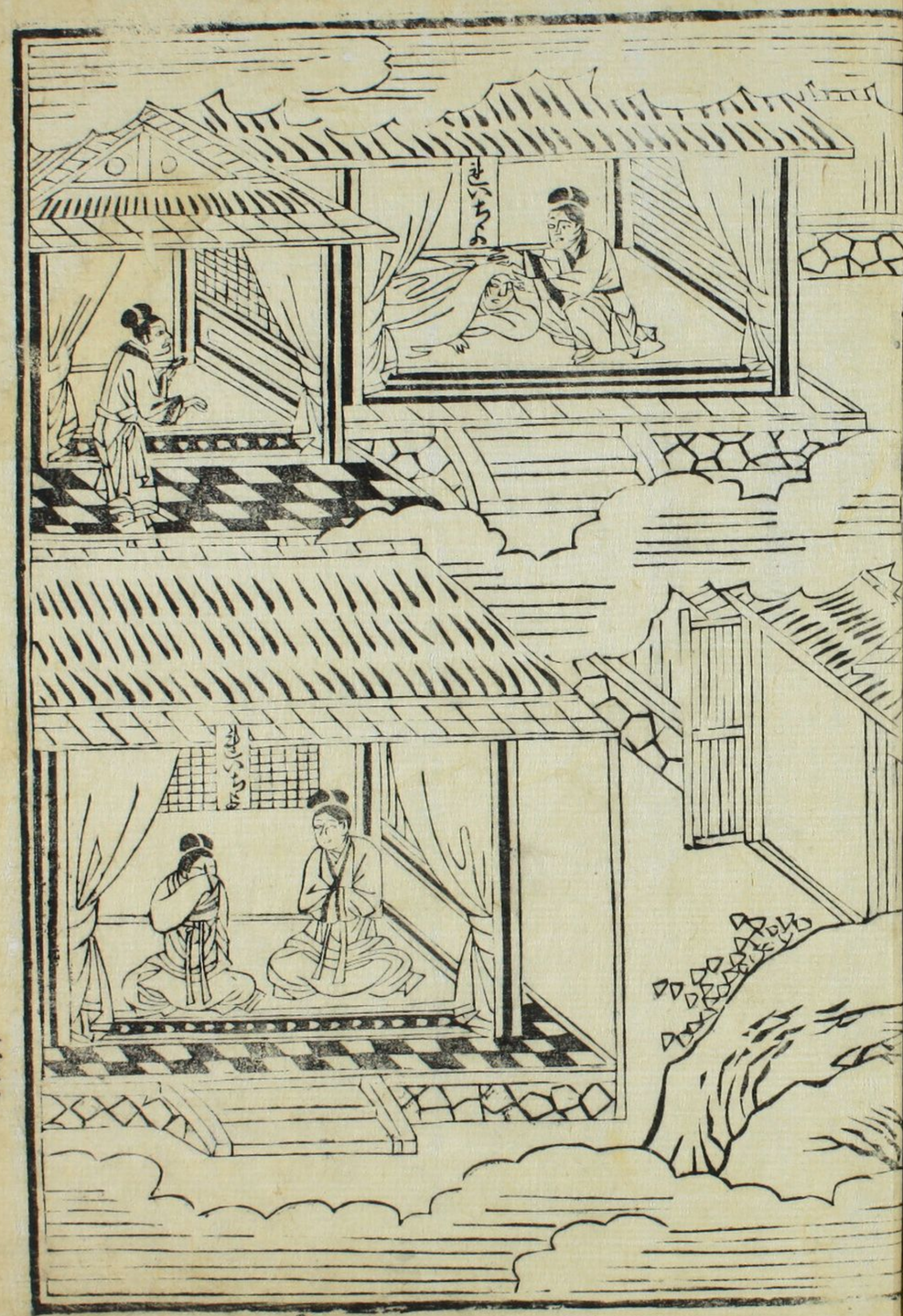
魏の曹爽が従弟曹文叔が妻ハ爰侯文寧が
妻なりあたり字づきて令女とぞ申しける
彼文叔ハ早くはかなくなりぬ
寧の服すてはてぬうちに令女ハ
思ひきりやうにもれ
ふたりわづか母ばかりをもへくみ
嫁やもめ
くずとなりいさぎよくすまりて
ゐるうちに寧ハ

て嫁せしめんとす令やこれをうけ給はりいくさづくしみうちの氏とりて妻の年をぞきりかりきろそれうを後いとろげの年みかまつの陸奥曹爽母うちはせくさうつひむ曹爽かりてこうれ行りこれぞこの時母ゆうりて曹氏入一門とくを死ありきうりて令やづ入氏義侯よ寵ゆうすめの年いまぞうくきうの義と言くをはもはいづくとあれこそ曹氏とみるあるり令八分入りとうるべうず

うはすうきうりとうもいうりんくうも嫁してもうもそれとはいうりとせうり令女ひううう事原てのち寝ありてうるのりうく曼をきりうすうはひうづうくぞ母きりきはは母きろりうりうくうくべどもいうくもせうりうりうう無陸引のきくこ出氏これぞうきはうりうう家中のくうるれどうきはうりて立をれうしをはうをうくくくくうるくくくうくくくくくうくくくくくうくくくくく

世にきこえし第一の美人なり
なれどもいとけなき事とまつることまの家々
門にまねびうらやみされどあるべき第一義とは
まと令女こうへていとくれこころはきて
事なり仁者は威嚴ありて第一とはいふべき義
者は存亡とりつくいふ曹氏のちりを
ちりけふるものなりとて節とはいりんと
なりてやいつるとへうらびこのはふ
ありて義とこそべきやこはまるものえ
なりれわれをもざるよる

しるべきことそ
うるはし 新製 他の至誠とはいふ。爺嬢
あんぞうの情とうづんと欲する。間と何が
ゆく剛剛てこりてあるすべきある。白い床
ひいらしくいづまるれとうるぐん
えいくまま家疲して後まるうる保これ
ハ是常情はいるもるの時。令女將
千ず裏と威と妨孫一乃とくみして行廚
風ことあし

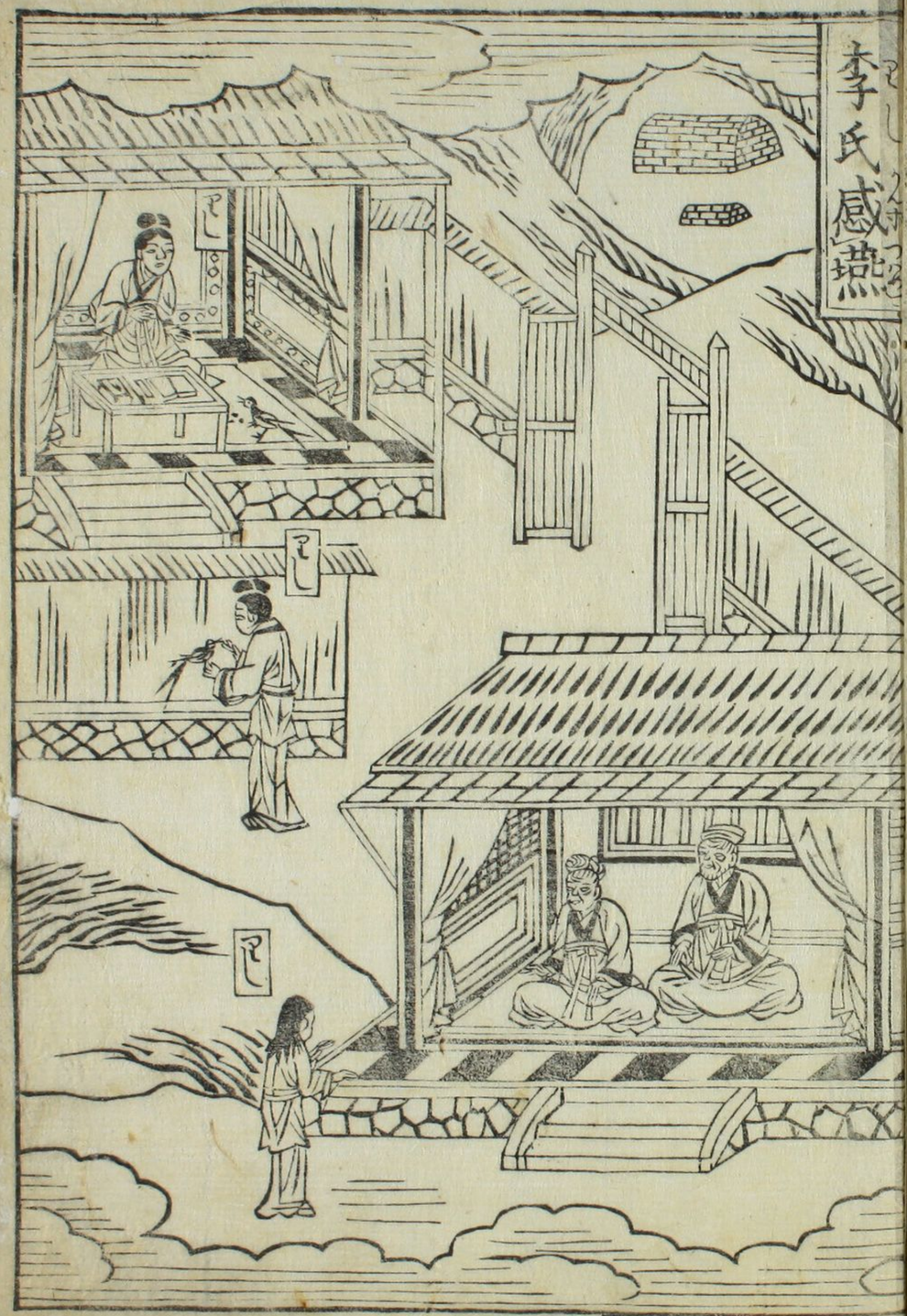

きいちの
きいちの

令女截耳
きいちの
きいちの
きいちの

李氏感燕

宋の衛敬瑜ちゝ死してその妻李氏年
ゝづゝ二十ゆして屋ゝあるとり丈母みい
新人ゝを繫せしめんとすゝ李氏之
ゝもがりずは井ゝ髮ときりてこゝびくう
ゆゝ事をゆゝを海ぐこゝ事とあゝゝやり芝
御ゝ李氏ゞすむゝゝゝゝの繫あり
て巢をはゝれりあゝ日雌すでゝひゝゝう
ありて巢のゝゝゝゝとびきゝれり雄ハりの
ゝゝゝ害せゝ死せり李氏その雌乃
ゝひゝゝゝゝ繫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝをゝくわゝゝゝ幕をゝゝゝゝゝゝゝ
ゞやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ繫
ゝあゝゝはゝて去ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝきゝゝを年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝく李氏ゝあゝゝみくその素ゝすみゝゝ
秋ゝいゝゝてハゝ如ゞよゝゝゝて繫あゝ
みゝゝゝ飛ゝゝを見ひゝゝてみ雄ゝ去ゝゝば
ずゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

らは李氏があるうとまれず李氏をあつら
ひしはかりてつくく
昔年偶うしてき。今玄還独り久
友人情を童しの。えは双亀すうは思びずと
うふ孫ごてつとすぐうみまりこと秋又
蕙乃うるとさむうびきこはうて李氏の膝
はそぎまりいはをとうふうごくみ〳〵朝ようぞ
うりまる李氏もまくはむふてりのいつごく
とく孫んごうはうれとうはごりしはその年
れ李うごく李氏やういとうまてむのくみまり
みあるはうれ李はいて蕙きてうり李氏
とうごあるう猟うてあの内ととびめごりてうく
しあるれたり人へうるきごくはやいくはご
やはむうひくいくはんはちふはしじ李氏ハ
たき年れ李うごくはやいとうひくむのく
たまりうきこうるうきうるうるはうり
はごるぞとかりけまで蕙するうち李氏が
はうはゆうてうびあごりうびごりてはるは風
ご食うもうあず屋東とふはうるのみく
はやはは懐乃うはは懐はちくむのくりふうり



人まうけをもうけがりて李氏が境の傍ら
にはかにて悲と感冥とうづく
幸に数聚あり李氏が
名と姓を書とうさうう
ちの四年の夫亡じてうつくしもあつまじ。
節操嫁せんと欲すれども節操堅し。殘行
剪髮してはみまの改むるまじ。凛冽
たる風比肩軍のり
入口帷蔽る綾く栖李氏の堂。孤飛比後数
年強し。主人すでに逝て竟まうわうう
拉ん。不食哀悲して冥傷に死す